

あした みやまへの未来

ふるさと宮前のために 千載一遇のチャンスを逃がさない

鷺沼駅へのアプローチ、都市計画道路「梶ヶ谷菅生線」の整備を

鷺沼駅への路線バスなどの交通アクセスの改善には、駅前広場だけの再整備では不十分です。駅にアプローチする都市計画道路の整備も欠かせません。

そこで、都市計画道路「梶ヶ谷菅生線」の整備を議会にて継続して議論しています。

この「梶ヶ谷菅生線」は、宮前区の大動脈である尻手黒川線を補完するために計画された道路で宮前区役所の前を通っています。昭和39年9月に都市計画決定されています。しかし、現在進行中の第2次「川崎市道路整備プログラム」でも整備の対象となっておらず、「鷺沼駅周辺再

開発事業」との連携ができていないのです。

犬蔵2丁目の交差点で、向ヶ丘地区と鷺沼駅が繋がれば、一気に広がる

そもそも宮前区は、東名高速道路で区が二分され、向ヶ丘地区と宮前地区の一体性を図ることがまちづくりの上での大きな課題でした。

その意味からも、都市計画道路「梶ヶ谷菅生線」、特に犬蔵2丁目地先から東名高速下をすでに用意されているトンネルを抜けて、鷺沼駅へ向かう約400メートルの未着工部分の対応について機会を捕らえては、ねばり強く整備の議論を続けてきました。

重ねての議会での質疑では、「鷺沼駅周辺再整

備事業に関連した交通アクセスの施策と連携を図りながら、適切に判断する」との答弁を得ています。予断は許されませんが、引き続き、事業実施の決定を求めています。

なお、かねてからの懸案でした「横浜生田線」水沢工区は、平成33年度供用開始と時期が明示されました。いまだ横浜市サイドの一部に反対意見があるようですが、理解を求める努力を続けています。この路線が開通すると、ますます「梶ヶ谷菅生線」との連携が深まり、鷺沼駅への利便性が增大することが期待されるのです。

横浜市営地下鉄の延伸にむけて 向ヶ丘地区の交通環境の改善を

横浜市営地下鉄3号線（ブルーライン）の「あざみ野駅～新百合ヶ丘駅」までの延伸については、平成31年1月下旬に正式に横浜市が事業決定の発表を行いました。2030年頃の開業を目指すとのことです。

事業化決定のあと、事業主体、事業スキーム、事業費用負担、ルート、駅の位置の決定などについて、川崎市と横浜市との間で議論することになります。

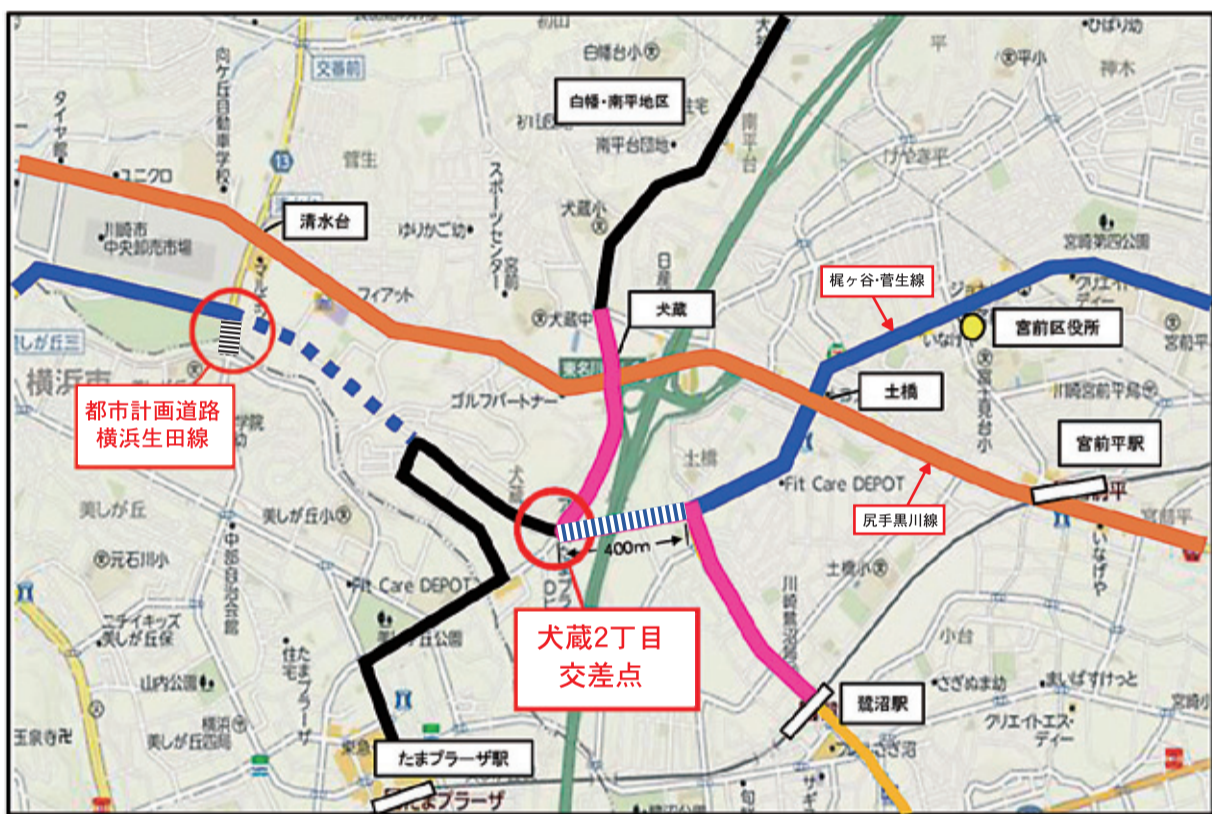
地下鉄延伸の機会と連動させて、向ヶ丘地区の地域交通の将来像に関わる議論を深める絶好のチャンスと認識しています。

悲願のコミュニティバス実現の 前提条件が揃いました

鷺沼駅周辺再整備と地下鉄の延伸が事業化されることで、いよいよ宮前区内の既存のバス路線の見直しとコミュニティバス導入の素地が整いました。宮前市民力が試されます。



市の職員と犬蔵2丁目交差点で何度も協議を行って来ました



これによって向ヶ丘地区と鷺沼駅が繋がります

Column 斬

個別に対処する社会から「認知症フレンドリー社会」へ 地域で普通に暮らせる社会へとデザインを変えよう

2018年には、認知症の方が500万人を超えたとの推計値があります。高齢者の7人のうち1人が認知症という計算です。また、認知症にかかる方の割合も85歳以上になると大きく上昇し、男性が約5割、女性が約6割以上の人が認知症になると推計されています。

これは認知症のひとが、「特別なひと」ではなく、地域に普通に暮らしていることを意味します。我が国は、すでに人類が経験したことのない割合で認知症のひとが生活する社会を迎えているのです。

◆認知機能の低下した人が 利用できるようにサービスを見直す

これまで、認知症の方のご家族から多くの困難事例のご相談を頂いてまいりました。早期発見、早期治療の体制をつくること。認知症の症状を発症したときから、生活機能障害の進行状況にあわせて、医療・介護サービスに適宜つなげていく「認知症ケアパス」の確立。認知症の方のグループホームの増設など、取り組みを進めてきました。

しかし、相談数は減少するどころか、個別の困難事例が増えるばかりです。せっかくご相談いただいたても、直ちに解決につながらないことが多く、モヤモヤしておりましたが、鷺沼駅のある銀行の支店長と会話をしているヒントを頂きました。ATMでお金をおろすときに、暗証番号がわからなくなってしまったケースなどが多くなり、行内での検討を余儀なくされたというのです。その結果、接遇を改善することで、普通に利用できるように問題の解決を図っているとのことでした。

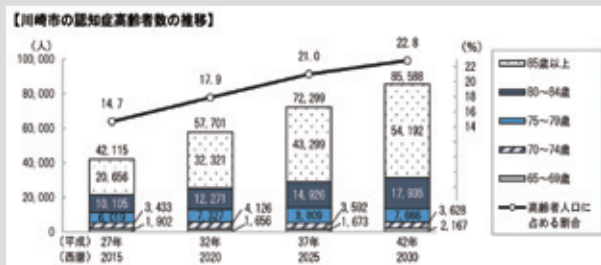
◆「認知症対応社会」から 「認知症フレンドリー社会」へ

現在の「認知症対応社会」では、認知症のひとが社会的な負担だというのが基本的な考え方です。認知症の方が500万人を超えるなか、「特別なひとの面倒をみてあげる」という図式はもはや成り立ちません。

これに対して、認知症のひとの困り事をはじめ、どのような状況であっても普通に暮らすために社会の側のデザインを変えていくというのが「認知症フレンドリー社会」の考え方です。

先ほどの銀行の例以外にも、買い物での問題であれば、スーパーマーケットやコンビニ側が、移動の問題であれば、鉄道やバス事業者が接遇などを改善することで普通に利用できるようにする、というアプローチです。

なお、徳田雄人著「認知症フレンドリー社会」（岩波新書）を参考としました。興味のある方、一読をおすすめいたします。



おだかつひさ事務所
〒216-0003
川崎市宮前区有馬6-6-1
五十嵐ハイム102号
TEL/FAX 044-856-5456

●鷺沼駅からバスの場合●
「中有馬」バス降下車
駅前3番乗り場
(市営バス・東急バス)
小杉、新城方面4つ目

おだかつひさ(織田 勝久)プロフィール

- ◆1961年8月 幸区生まれ。駒場東邦高校、中央大学 法学部卒業 (地方自治、都市政策専攻)
- ◆国会議員秘書を経て、2003年川崎市議会議員初当選。現在4期目。市議会総務委員会委員長、健康福祉委員会委員長、議会運営委員会副委員長、議会運営検討協議会および市議会政策担当国会議員メンバー、市監査委員等を歴任。みらい川崎市議団前団長。現在、まちづくり委員会委員。
- ◆ボーイスカウト川崎第54団所属、宮前区少年野球連盟顧問、宮前区ゲートボール協会顧問。原水禁川崎市連事務局長。
- ◆尊敬する人物/ケネディ元アメリカ大統領
- ◆好きな作家/司馬遼太郎、宮城谷昌光(時代の変革期の間人模様に)関心)
- ◆好きな言葉/知行合一
- ◆妻、二男(25才と20才)の4人家族。有馬在住。

<http://odakatsu.com/>

Facebook, YouTube, おだかつひさ